

園山

Sonoyama Wataru

亘

岡山大学病院
補綴科助教

岡山大学にはユニークな研究者が多数在籍しています。そんな研究者の素顔に迫るこのコーナー。今回は岡山大学病院の補綴科に所属されている園山亘先生にインタビューしました。

- ▶1996年、岡山大学歯学部卒業。
- ▶研修医などを経て2000年に岡山大学病院の補綴科に採用。
- ▶2004年から2006年まで米国・国立衛生研究所ならびに南カリフォルニア大に留学。
- ▶現在、岡山大学病院補綴科助教。



岡山大学歯学部への入学動機

もともと医療関係の仕事に興味がありました。出身が岡山市だったこともあり、自然と地元で岡山大学を目指していましたね。

研究職に就いたきっかけ

当初は開業したいとおぼろげに考えていたのですが、約2年半の米国留学が大きなきっかけとなりました。次々に新しいテーマや課題を追究していく面白さを感じて、今後も研究を継続していこうと考えました。他人の論文を読んで、今まで知らなかったことを学び、新しいこ

とを考える。それをもとにして、自らの実験で新しい発見ができる。これが研究の楽しいところ

です。

補綴科の仕事

補綴科は、歯が欠損した場所を補うために歯を作るのが主な仕事です。治療法としては、かぶせや入れ歯、インプラント治療などがあります。他にも歯のホワイトニングなども行っています。「失った歯の機能・見た目を回復させる」という補綴科の仕事はとてやりがいがあります。

具体的な研究成果

現在、歯が欠損した場合、金属製のインプラントを用いて治療を行うことがあります。インプラント治療は他の歯に頼らず、噛み合わせや見た目を回復できるたいへん良い方法ですが、インプラントには、本来の歯の周囲にある歯根膜という感覚を司る部位がありません。したがって、インプラント治療では反射や噛みごたえまでは再現できません。また、子どものあごの骨の成長と調和できないので、子どもへの適用には制限があります。こういった欠点を持たない、

自然な歯の再生を目指して研究を行っています。しかし、歯の頭の部分を覆うエナメル質を作るエナメル芽細胞は、ヒトでは早い時期に失われてしまうので、エナメル質を含む歯全体の再生はまだまだ困難です。そこで私は、まずヒトの歯の根元部分を再生しようとしています。

このたび、成長途中のヒトの親知らずから、歯の素となる細胞を発見したので、これを利用して歯の根元部分を再生することを計画しています。すでに、ブタを使つての歯根の再生実験には成功しています。この技術がヒトでも成功すれば、インプラ

ント治療では得られなかった噛みごたえを再現することができますし、子どもの歯にも適用できるかもしれません。

将来の目標

やはり、歯の完全再生が目標ですね。現時点ではエナメル質を作る細胞の取り出しに成功していないことや、歯の育成スピードの問題など、まだまだ研究課題は山積みです。しかし、いつかは患者さんが歯を失った部分に、その人本来の歯を再生やすることができるようにしたいですね。